みんなさんと
考えたい！
来てほしい！

災害 避難したその先は？

災害ボランティア
コーディネーター養成講座



12/6(日)10時～12時半

南知多JA会館(南知多町大字豊浜字須佐ケ丘1)

※南知多町総合体育館の隣です。



災害ボランティアセンターの役割や、被災された方の心理、
心のケアについて学び、災害について考えます。

- 災害ボランティアセンターについて
- DPAT隊員による被災者の心理、こころのケアについて
- 非常食を試食しながらの座談会（自分や地域の取り組みなど）

全ての方が対象の講座です。参加無料
申込みは、電話・メール、下記二次元コードより(11/27(金)申込締切)

裏面の講師紹介、災害ボランティアコーディネーターについてもご一読ください。

【申込・問合せ先】 南知多町社会福祉協議会 TEL:0569-65-2687
E-mail:info@minamichita-shakyo.jp

講座への想い

高齢者の多い南知多町では、大きな災害が起きたとき、自分の力だけで生活を元に戻すことが難しい人もたくさんいます。だからこそ、地域での助け合いやボランティアの力が復興への大きな原動力になります。災害は、避難所に逃げたら終わりではありません。本当に大変なのは、そのあとの「元の生活を取り戻すこと」です。災害後の「生活の再建」のために、私たちがやれること、地域のつながりを一緒に考えましょう。

講師紹介とDPAT（災害派遣精神医療チームについて）

【講師紹介】

被災地の最前線で寄り添う「こころのケア」の専門家

宮澤 佳久 氏（看護師） ／ 藤本 悠子 氏（精神保健福祉士）

災害派遣精神医療チーム（DPAT）の隊員として、数々の被災地で活動を続けるお二人をお招きします。宮澤氏は熊本地震や新型コロナの帰国者支援、能登半島地震への派遣実績を持ち、藤本氏は能登半島地震での活動のほか、子どものための心理的応急処置（PFA）のファシリテーターとしても活躍されています。本講座では、被災地での経験をもとに、被災された方の心理状態やこころのケアの重要性、私たちにできる被災地支援について実践的なお話をしていただきます。

DPAT（ディーパット）とは？

「災害が起きたとき、被災した方々の『こころのケア』を行う専門チーム」です。
大きな災害や事故が発生した現場へすぐに駆け、避難所などを巡回し、精神的なショックを受けた被災者の方や、不眠・不安に悩む方々の相談に乗り、必要な医療につなぎます。お家や大切なものを失ったストレス、慣れない避難所生活などで、こころのバランスを崩してしまう方は少なくありません。皆さんの「こころの健康」を守り、一刻も早く安心を取り戻せるようサポートします。

災害ボランティアコーディネーターについて

災害ボランティアコーディネーターは、「被災した方の『困りごと』と、ボランティアの『助けたい気持ち』をつなぐ架け橋」です。大きな災害が起きると、全国から多くのボランティアが駆けつけます。しかし、ただ人が集まるだけでは、被災された方の本当に必要な助けにはなりません。被災した方に寄り添い、困りごと解決のお手伝いをするのが「災害ボランティアコーディネーター」です。